

【都筑区】令和 8 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 2 月 6 日（金）09：55～12:15
場 所	5 階特別会議室
出席者	<p>【座 長】白井亮次 議員</p> <p>【議 員：4 名】長谷川琢磨 議員、市来栄美子 議員、磯部尚哉 議員、深作祐衣 議員</p> <p>【都筑区：33 名】佐々田賢一 区長、宮嶋真理子 副区長、日比野徹 災害対策担当部長（都筑消防署長）、中山昭 福祉保健センター長、米澤陽子 福祉保健センター担当部長、藤井由貴 福祉保健センター医務担当部長、故島哲朗 都筑土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 8 年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算案について</p> <p>2 報告案件</p> <p>GREEN×EXPO 2027 の機運醸成の取組について</p>
発言の 要 旨	<p>1 令和 8 年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算案について</p> <p>【総括】</p> <p>深作議員：3 頁の全体の区づくり総括表。令和 8 年度は自主企画事業が微減になっていて区庁舎管理費が増えていると思うが、これは、自主企画事業を行うべき課題が解決したなど課題が少ないことからこのような配分になっているのか。</p> <p>江口総務課長：市民局としてトータル 18 億円の予算だが、まず 75%を各区に配分している。それ以外については、人口や学齢期前人口、高齢化や区の特性に合わせて配分している。都筑区は全市における人口が減少しているため、自主企画事業費は微減になっている。</p> <p>深作議員：課題が減ったのではなく、全体の中でということを理解した。区庁舎・区民利用施設管理費が上がっているのはなぜか。</p> <p>江口総務課長：昨今、物価や人件費が増加しているので、区民利用施設管理費等に反映させたため、増となっている。</p> <p>【こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業】</p>

深作議員：大きな予算が組まれて全市のモデルにもなる有意義な事業だと思っている。具体的にどのような地域からの声があり、ここまで進めることになったのか。

橋本区政推進課長：少し背景からご説明させていただくと、子育て現場で活動されている支援者の方や地域活動者から寄せられた声で、学齢期の子どもには安心して過ごせる場所がないのではないかとご意見を伺うことがあった。区としては子どもたちの状況が把握できていなかったため、区政推進課はじめ、子どもに関する施策の担当課で横断的なプロジェクトを立ち上げまずは実態の把握をすることにした。令和7年5月から7月のデジタルプラットフォームや子どもを対象にしたアンケート、子育て支援者へのヒアリング、意見徴収等を行い、一定のニーズがあると判断し進めた。

具体的な声としては、6月16日から6月30日まで、区内市立小学校3年生から中学3年生にアンケートを行った。その中で、「どのような場所でどのように過ごしたいと考えているか」という問いに、約64%の子どもが「普段過ごしている場所以外の居場所を欲している」こと、また、「ショッピングセンターや公園、図書館等、身近なところに居場所が欲しい」と思っている子どもが多いという結果が出た。

保護者向けのデジタルプラットフォームでは、「子どもの意見を取り入れた居場所ができることが望ましい」、また、「図書館などに居場所機能を付与する」、「ニーズを地域活動団体や法人に届けられるよう周知を行ってほしい」、「マンションの共有スペース、町内会館で放課後キッズができないか」等のアイデアをいただいた。

子育て支援現場で働いている支援者からは、「就学すると相談できる場所が少なくなり孤立しがちになる。」、「子ども自身が自分で居場所を決められるような環境が必要。」、「学びやボランティア体験も居場所になりうる」と意見をいただいた。

これらの意見を新たな事業に反映させていく。

深作議員：理解が進んだ。マンションのイベントルームは可能性があると考えている。マンションの自治会で進めているという話も聞くので、区のサポートや地域の方がより関わることで発展する

と思う。地域の居場所をデータベースにも反映させる必要がある。また、図書館は居場所という可能性が多くある。そこで聞いた声を図書館の整備にもしっかり反映させてほしい。引き続き、子どもの声を聴き続けて、心地よく自分らしくいられるのか調査を続けてほしい。

これは市のモデル事業ではなく、完全に区独自の事業なのか。

橋本区政推進課長：区づくりで行うが、局からも今後を見据えて一部再配当も見込んでいる。今後は、都筑区の取組を他の区にも波及させることを想定しているので局との連携を視野に入れながら丁寧に進めていきたい。

深作議員：絶対に他区でもニーズがあると思うので、区づくりで実施するのは重要だが、局から予算が再配当されると良い。次のステップであると思うが、必要な働きかけを行い、市の事業として行うことが全市的に暮らしやすくなると思う。

【スムーズ区役所事業】

深作議員：都筑区は、子どもを遊ばせられるクッションフロアがある（つづきっこランド）。他の区では、都筑区の広さでは整備されていないので、心の安心感が違う。待ち時間の削減だけでなく、子どもを遊ばせながら相談できるハード面の整備も進めてもらえると良い。待ち時間は短縮できても、子どもを2人、3人連れているのは変わらないし、どこかに行くのもハードルがあるので、区役所の資源と広さを活用して、一体で進めてもらえないか。

江口総務課長：当区庁舎は、広いとはいえ手狭になっているところもある。今後検討したい。

深作議員：市民局のやっている区役所の「待たない、書かない、行かない」が進めば、待合スペースや筆記スペースも徐々に少なくなるはずなので、区民の使えるスペースを柔軟に組み替えられるような整備も将来的には考えていかないといけない。子どもを遊ばせながら相談したいという区民のニーズはあるということは伝えておくので、ぜひ検討してほしい。

【多様性にあふれるまちづくり推進事業（DEI 推進事業）】

深作議員：在住外国人支援において、多言語での生活支援があると思う。DEI の視察をしている中で、翻訳や通訳だけではなく多文化ソーシャルワーカーのような人で、「本人、環境、家族、宗教、文化を理解しながら必要であればサービスや社会資源につなげ、コミュニティに働きかけられる人」が今後、求められるのではないかと思う。「多言語による生活相談・情報提供」で、今、実施していることからどれくらい変わるのか教えてほしい。

須藤地域振興課長：「多言語による生活相談・情報提供」についてはつづき MY プラザで実施している。日本語教室や学習支援も行っている。多文化ソーシャルワーカー的なものでいうと、SCC が外国から来日されたご家族のサポートを行っている。DE & I FESTIVAL では、つづき MY プラザとポポラと SCC で連携して実施している。元々、3者連携しており、今後はより一層、ワーカー含めたサポートができないか検討したいと思う。

深作議員：移住定住してくださる方をどう巻き込むかが重要になる。つづき MY プラザや SCC といい連携の取組が進んでいるからこそ、皆様の思いや活動を次の展開につなげていき成長させていくことが今後の市の発展にもつながるのではないかと思う。

【総括】

長谷川議員：経費の削減を頑張ってください、感謝している。区民利用施設の修繕費が 50 万の削減となっているが、住民が使うところを厳しく削減しているが、平気なのか。

江口総務課長：小破修繕は毎年おきるので、ある程度予算をつけなくてはいけないが、実績を考慮している。必要になった場合は新たに予算を要求するので、区民の利用に問題ないように対応する。

【妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業 （潜在保育士の保育士体験）】

長谷川議員：「将来保育士資格を取得して働きたいと考えている方」も対象に含めているということで、以前自民党に幼保の関係者から「学生にもっと体験学習を行ってあげられないか」という要望があり、もう少し広がらないか依頼したことがある。今後の方向性として学生の参加というのは増えていきそうか。

古橋学校連携・こども担当課長：目的としては、保育士資格を持っていて活用していない人と今後取りたい人の2パターンある。それぞれから応募、体験いただいている。

今年度は、10～40代の13人の申し込みがあった。これから資格を取得する学生も参加している。すぐに雇用率が上がるものではないが、広く受け入れている状況である。

長谷川議員：保育園とか幼稚園は、学校等に自分も行くという話も聞いているので、上手く連携して学生の中に種をまいてもらえると良い。

【こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業】

長谷川議員：小学生になった瞬間に居場所がないという話をよく聞く。小学生と中学生のニーズは少し違う。どうアプローチしようと考えているのか、どちらに重きを置くのか方向性を聞いておきたい。小学生が必要とするものと中学生が必要とするものは少し違う。両方行うのはわかるが、一度にはいかないだろう。最初はどちらから動くつもりか、参考程度で結構なので教えてほしい。

上田こども家庭支援課長：小学生、中学生でニーズが違うし、同じ小学生でも低学年高学年で違うということは認識している。どちらに重点を置くということではなく、子どもから意見を直接聞くのが大切だと考えている。どういう情報が必要なのか、どういう居場所が必要なのかに関しても、子どもに聞いてニーズに合わせた情報を提供できるようにと考えている。

長谷川議員：大変だが、長期にわたり取り組む事業だと思うので、まず一年目頑張ってもらいたい。

【自治会町内会の地域運営応援事業】

長谷川議員：加入率がまた下がった。それに対する認識と都筑スタイルをどのように行っていくのか。

須藤地域振興課長：令和7年度で54.8%と8万9,838世帯のうち加入世帯が4万9263世帯。18区全体の加入率は65.3%で都筑区は18位。なお、令和6年度と比較すると0.9ポイント減。107世帯の減。差については都筑区が1番少ない。下がっていることは事実。

昨年度は自治会と連携していくつかの取組を行った。まず、区商連と連携してうちわを作成し、夏祭り等イベントで活用した。また、区民まつりでは連長に協力いただいて連合自治会のブースを作った。なぜ加入しないのかのアンケートをとり、仕事が忙しいとか、案内がないとかの回答を得た。転入時に渡す転入キットに入れてはいるが、埋もれてしまっている。今までの冊子を、形態をかえて入れるように検討している。

集合住宅については、加入促進は上手くいかないのので、区連と区役所と宅建協会とでもともと協定を結んでいるので働きかけを行い、加入に結び付けたい。

自治会町内会2、3年目の方を対象にした動画を作成し、入口としてわかりやすいという声をいただいている。うまく活用しながら、やっていただく方の負担を減らしつつ加入促進をしていきたい。

長谷川議員：加入率が上がれば良いところもあるが、加入率をあまり気にしてほしくない。重要なのは、情報がつながり、流れをつくるのが町内会であること。今までの慣例にとらわれず、負担軽減を上手く進めて必要なところに投資をしないといけない。それについての認識はどうか。

須藤地域振興課長：担い手不足で、負担軽減が必要と思う。そのために都筑区では都筑スタイルとして自治会町内会の応援事業として実施している。自治会町内会とは別に様々な形で地域活動をやっている人と自治会町内会のマッチングを行った。各地域活動団体がやっている事業を自治会に見せて、自治会のサポートをできるようにした。7年度に初めて実施し、今後の予定を含め既に7件マッチングしている。自治会町内会活動は限られた方で行っているのので、少しでも軽減を図り、その他の部分の地域活動も盛んにし、盛り上げていきたい。

長谷川議員：ぜひこちらも都筑区独自の形で模索して行ってほしい。

【地域活動の活性化事業

（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア）

長谷川議員：はあとでボランティアも広報費を削るという話だったが。

須藤地域振興課長：令和7年度実施した事後広報について、費用対効果や

受け入れ態勢の観点から次年度については実施を見送ることとしました。

【障害者交流啓発事業】

長谷川議員：交流らしき交流があまりないと思うが、理解が深まったとはどのような状況か。都筑区は手帳を持つ人も増えているが、理解する場もあまりない。共生フェスタもこのやり方のままでいいのかと思うがどうか。

森兼高齢・障害支援課長：障害者との交流及び障害者に対する理解促進は難しいが、共生フェスタは広く多くの方に来ていただける場であると認識している。それ以外は障害者に対する理解を深めるための研修会等を実施。自立支援協議会の関係施設（特に基幹相談支援センターくさぶえ、生活支援センターこころ野）が、希望のある地域の自治会、地区社協、地区民児協で講座を実施している。これを周知してもっと増やしていきたい。また、地域の防災訓練に、自立支援協議会の人に支援を受けながら、グループホームの人に来ていただくようにして、地域とのつながりをつくっている。

広報よこはまも活用していきたい。

長谷川議員：講座も同じメンバーしか受けていない。違ったアプローチを考える必要がある。やり方を考えた方が効果的になるのではないか。検討してほしい。

【安心・安全なまちづくり事業（交通安全運動）】

長谷川議員：事故は怖い。どう子どもたちの心に投げかけられるのか。子どもの見守りが減っている。子どもたちが安全な場所なら良いが、スクールゾーンを通ることにはなっているが危ない。どう子どもたちの見守りをやるか。親が共働きなので旗持ちとかも難しい。このような状況の中で、どう地域を絡めるのか、方針や考えはあるか。

須藤地域振興課長：交通事故について、7年は418件、昨年度比5件減。死亡事故が4件、昨年度3件増。うち、高齢者2名。

基本的には交通安全は小学生には、はまっこ交通安全教室を9校で実施。ミニ交通安全教室を12校で実施。それ以外に中学

生には体験型教室や座学を実施。区民への周知だと、防犯メールの登録者向けに、交通事故防止呼びかけのメール、大型店舗での放送呼びかけ、街頭啓発をしている。スクールゾーン対策協議会と引き続き連携をとって務めていきたい。

長谷川議員：スクールゾーン対策協議会は、土木事務所とか警察が来ているが、形式的になっている。地域の関係者と上手く連携して、昼間どういう人たちが、「ながら見守り」できるか。行政からもお膳立て、交通整理をしてあげるといい。そうしないと「自分の身は自分で守れ」になってしまう。

【みんなで花と緑のまちづくり事業

(GREEN×EXPO 2027 来場喚起の取組)】

長谷川議員：市の予算で実施できればいいと思うが、体験はどのような形での体験を増やしていくのか。

橋本区政推進課長：区局で連携して、都筑区でも様々な取組を行っている。今年度は、地域の皆さんとの連携で都筑中央公園の里山を使った体験型プログラム、ガーデンを使ったイベント等を実施した。来年度も、子どもたちを中心に自然に触れあえるプログラムを検討している。地域を巻き込んで機運醸成を図りつつ、来場者喚起につなげていきたい。

長谷川議員：都筑区ならではの取組として、都筑ならこれができるという特色があるので、お金をかけずに継続してできるものを、区民が緑に触れ、緑について考えていける取組を検討してほしい。要望である。

【地域で支える認知症支援事業】

磯部議員：物価高という中で区民のニーズにそった予算になっている。

認知症VR体験会を7年度実施したが、反響やどのような技術を利用したかを知りたい。

森兼高齢・障害支援課長：今年度初めて行い、バーチャルリアリティーという機械を使用し、今回の体験ではバスに乗り降りする際に認知症の方がどのように見えているか、また、錯視・幻視の体験をしてもらった。実際には125人が体験し、9割近くの人が、「理解が進んだ」「今後の接し方について変わった」という声をいた

だき、一定の効果があつたので来年度も実施する。疑似体験がわかりやすいこと、実施を関係機関に報告した際、関係機関でも実施したいとの声もあつたので、来年度の実施方法や関係機関との連携に関し、工夫・拡充して実施したい。

磯部議員：疑似体験は関心があるため、想像以上に参加されたということか。

森兼高齢・障害支援課長：はい。

【災害にそなえる自助・共助の推進事業】

磯部議員：今年度からの新しい「地震防災戦略」を踏まえて、新しい取組を年度内に進めたか、また、防災のための周知等の取組は。

江口総務課長：今年度実施したことは、新たな地震防災戦略を踏まえ、各地域防災拠点へ資機材の増強を行っている。具体的には、女性視点の観点でのセンサーライトを各 20 台程度の配備等がある。それ以外に発電機を配備した。

来年度も、地震防災戦略に沿って、避難生活の夏場の暑さに対応するために、冷扇機やスポットクーラーを空調が整っていない拠点への配備を進める。

新たなものとしては、区内補充的避難所 14 か所、地域防災拠点 27 か所が使用できない場合に使用する場所に、食料等を配備していく。

磯部議員：認知症でVRの話を伺ったが、去年、防災のVR、津波等のシミュレーションができる岡山の事業者を視察し、実際に体験し没入感がいい体験になり、防災意識の向上につながると思った。新しい技術を、特に、年少人口が多いので、小中学生に使ってもらい実際の体験を通じ防災意識の向上につなげることをぜひ実践していただきたい。広島県は毎年予算化し導入している。鶴見区でも1回使用したと聞くのでぜひ予算化を検討してもらいたい。

江口総務課長：検討したい。

【メイドインつづき推進事業】

磯部議員：「テクニカルショウヨコハマ」に行って取組を見た。段ボールを使ったトイレや防災の仕切りとか様々な製品が展示されて

いた。都筑区で参加されている方の製品を取り入れてほしい。
実際、取り入れているものがあるか。

橋本区政推進課長：メイドインつづきの事業参加企業に依頼したものとしては、GREEN×EXPO 2027のPRにオクトルミナという内照式広告パネルの製造を委託し、「テクニカルショウヨコハマ」の会場の入口に設置していた。その他、メイドインつづき事業のPR冊子の印刷物の発注等を行っている。

磯部議員：モノ作りを継承してほしい。AIが進んでも技術は残っていくものなので継続してほしい。

【区提案反映制度】

磯部議員：新しく区役所からネーミングライツの仕組みの構築の提案があるが、経緯と内容は。

須藤地域振興課長：ボッシュホール、ネーミングライツの財源が、基本は一般財源に入ってそのあとどのように活用するのか明確になっていないので、明確な基準を作してほしいという意図で提案した。

【妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業 (命の大切さを知る事業)】

市来議員：実施する背景は。

上田こども家庭支援課長：児童虐待の重篤化やこどもの性問題の低年齢化も進んでいる。これまではリスクが顕在化してから対処することが多いが、予防的観点からのアプローチが重要と考えている。幼少期の親への愛着は青年期の自己肯定感の形成につながる。愛着形成をしていく過程で子ども自身が自分の体を大切にすること、また、他の人を尊重できるようになること、親が自信をもって子育てできることが、トータルリスクの低減につながると考えた。

学齢期については、地域子育て支援拠点ポポラが7年度から、小学校との連携の中で地域と親子と学齢期の子どもたちの交流を行っている。学校や保育教育施設、保護者など各方面のニーズをとらえ、段階的に進める。

市来議員：今の子どもを取り巻く問題の根本を考えたところ、命の大切

さや性教育をしたいと話で、非常に説得力があった。リスク低減のために小さいころから教えるのはありがたい。頻度はどうか。

上田こども家庭支援課長：乳幼児健診や赤ちゃん会で実施する予定であり、年間を通じてコンスタントに実施する。

市来議員：小学生、中学生、高校生の子どもがいる親を対象とした性教育やいのちに関する催しに参加したときに、保護者から「性教育をどうするのかがわからないから参加した」という話を聞いた。終了後、「最初から最後まで性教育、命の大切さを聞いたのは初めて」「親子で向き合う機会になった」という声があった。教育委員会でも行っていると思うが、家庭で教わったことをどう受け止めるかが大事。幼児教育に加え、大人への教育や発信は今後考えていることはあるか。

上田こども家庭支援課長：区の実践は包括的性教育として、自分を大事にすることや、自分自身がかげがえのない存在だということを伝えていくことを目的にしていく。こうしたことは学校で習うというよりも日常的な親子の関わりの中でいかに伝えていくかという視点を大切にしたいと考えている。赤ちゃん会等で親向けに話をしたときの反応やニーズをとらえ次につなげたいし、保護者や養護教諭からどういうニーズがあるのか踏まえ、検討していきたい。

【こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業】

市来議員：地域で、子どもたちの居場所がないという話を聞いている。

引きこもりの青少年等を支援する施設も見学したが、引きこもりや不登校も背景は多様化していると聞いた。家庭以外にも子どもが子どもらしくいられる場所をつくる必要があると考えている。プレイパークのようなこどもの居場所づくりをやってほしいという声もあるが、この事業でそのような検討もされるのか。

上田こども家庭支援課長：今回の取組の中で大切にしていることは、子ども自身が自分でいたいと思える場所を選ぶことができるかということ。取組を通じて子どもたちには地域でいかに見守られているか知ってもらい、様々な大人との重層的な関りが子ども

の健やかな育ちに繋がっていく。将来的には子どもの支援に関わっている人が新しい居場所づくりに向けた取組を行うのが理想であるが、まずは、子どもたちに、こういう場所があるということ、自分たちが地域の中にいることを知ってもらうことを一番に考える。

【地域図書館のリノベーション（教育委員会事務局事業）】

市来議員：今回図書館が見直されるということでうれしいが、都筑図書館のリノベーションのスケジュールはどうなっているのか。

大谷都筑図書館長（兼務）：地域図書館のリノベーションの考え方は老朽化に伴い不具合があるので、レイアウトの見直しや閲覧席、壁紙の刷新等が基本。

来年度は、都筑、南、中、神奈川、戸塚に設計。スケジュール感は、都筑区は来年度後半に設計、9年度に実施。具体的には来年度だが、これまで利用者から寄せられている「狭い」「読書イベントを行う場所が無い」といったご意見ご要望やあらためてアンケートを行うなどして、より良い図書サービスができる図書館づくりを目指したい。

市来議員：場所的には2階に広げられるのか。

大谷都筑図書館長（兼務）：今回のリノベーションでは、レイアウトの見直し、床・壁紙等の新調、椅子・机等の刷新など、図書館の内装リニューアルが対象となっており、規模・面積の拡張などは行う予定はない。

【認知症サポート連絡会（再配当事業）】

市来議員：認知症サポート連絡会の実施の日程と、何をやっているのか。

森兼高齢・障害支援課長：認知症サポート連絡会は、認知症のキャラバンメイトの方が実施しており、年に複数回情報交換をしている。次年度の日程はまだ正式に決まっていない。連絡会では、認知症フォーラムの企画や認知症サポーター養成講座の企画をしている。また、認知症カフェを5か所運営しているが、運営の話もしている。

市来議員：キャラバンメイトの資格者は何人くらいか。

森兼高齢・障害支援課長：キャラバンメイトの数は、令和7年9月末現在、

区内で、246名。そのほか認知症サポーター養成講座を受講した方の総数は、令和7年9月末現在、29,114名地域にいる。

市来議員：行方不明で亡くなった方もいる。市販のGPSを靴に埋め込むなどの工夫している人もあるようだが、行政で何か支援はあるか。

森兼高齢・障害支援課長：認知症SOSネットワーク事業があり、事前登録すれば、行方不明時に市内の警察や鉄道会社、郵便局、地域ケアプラザ等関係機関に情報を入れて検索している。

事前登録がなくても緊急時は、認知症SOSネットワークの仕組みを通じて市内に情報を流している。

市来議員：周知の仕方は。

森兼高齢・障害支援課長：区役所や地域ケアプラザ等で相談を受けたとき、要介護の認定の調査でパンフレットを渡す等地道に周知している。それ以外に、ホームページ掲載、施設でのチラシ配架で周知している。

【スムーズ区役所事業】

市来議員：スムーズ区役所の予算額が大きく減っているのはどういう理由か。

江口総務課長：今年度計上した窓口発券システム導入費を次年度は計上しないこと、今年度は窓口案内のための人を雇用していたが、次年度はシステム導入により雇用しないため、大きく減っている。

【危機管理対策推進事業（関係機関と連携した災害対応力の向上）】

市来議員：マンションが63.4%というところで、これは賃貸も入っているのか。

江口総務課長：賃貸も入っている。

市来議員：賃貸の人も防災アドバイザーの対象者になっているという理解でいいか。

江口総務課長：はい。

【災害にそなえる自助・共助の推進事業】

市来議員：昨年10月に防災セミナーをマンション関係者を集めて開催

した。そのなかで、熊本地震の経験した方に zoom で講演を行ってもらった。非常に実質的有効的でいい取組だったが、来年度も実施するのか。

江口総務課長：当セミナーに、区の防災担当も出席していた。来年度からアドバイザー派遣を行うが、それ以外も引き続き検討したい。

市来議員：認定をされにくいという話も聞いていて、敷居が高い。敷居を緩めるような対策はするのか。

江口総務課長：担当局にご意見を伝える。

【環境にやさしいまち推進事業】

市来議員：ごみのポイ捨て防止は非常に良い取組だと思っているが、たばこのポイ捨てが散見される。受動喫煙をしないというところで公園が1月から禁煙になった。区としては何か対応するのか。

鈴木資源化推進担当課長：毎年局が主体でポイ捨て防止キャンペーンを実施していた。今年度は実施のめどはたっていないが、毎年1～2月に局で委託している指導員含め、健康福祉局職員等がキャンペーンを実施していた。来年の2月の条例改正を受けた区としての取組はまだ決まっていないが今後も意見募集を踏まえて検討していく。

【安心・安全なまちづくり事業】

市来議員：自転車のルールが変わる。中原街道等、青い自転車走行の道路があるが、途中で切れている。警察と連携して対応してもらえという理解でいいか。

矢口土木事務所副所長：自転車の通行帯は「都筑区自転車歩行者安全計画」で推奨するところをつくるように計画している。7年度は、区役所前からすみれが丘の交差点までをつける方向で進めている。それ以外に、道路局で基準をつくって意見を聞きながら進めていく。実際に違反者にどう対応するのかは警察になるので、それ以外を対応すると考えている。

【みんなで花と緑のまちづくり事業】

市来議員：GREEN×EXPO 2027 について、マスコットキャラクターのトゥンクトゥンクの活用についてだが、川和の菜の花と桜や、せせ

らぎ公園の桜とチューリップを見に、非常に多くの方が訪れる。そういった場に登場はないか。オブジェみたいなものを季節に応じて置けないか。

橋本区政推進課長：トウク トウクは最近人気が出てきてる。着ぐるみは EXPO 協会主催のイベントで活用が想定されており、各区でのイベントでの活用は難しいと聞いている。

一方で子どもからも人気があることから、バルーンをイベントで活用しており、一緒に写真を撮れるようなイベントも検討している。EXPO 協会と調整中だが、ぬいぐるみが発売されたので SNS (都筑区 X) で非公式を付けたうえで発信することも検討している。

市来議員：ぜひお願いしたい。

【こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業】

白井議員：小中学校の居場所づくりについて、SNS の取り巻く環境と深く絡んでいる。ネットネイティブの方も居場所推進会議のメンバーにぜひ入れてほしい。SNS で自分たちにはわからない使い方をしている。要望として伝える。

【地域で支える認知症支援事業】

白井議員：みまもりあいアプリの状況は。

森兼高齢・障害支援課長：昨年度、横浜市が民間のアプリ事業者のセーフティネットネットリンケージと連携協定を結び、広報支援を横浜市・都筑区が行っている。都筑区では相談者に渡したり、区役所と地域ケアプラザでのチラシ配架等で周知している。

白井議員：中川駅周辺の皆様やディーフレンズの皆様と是非連携をしてほしい。

【まちづくり総合調整事業】

白井議員：まちづくりのプランの意見収集、地域の意見を入れるということで真摯に対応いただき感謝する。意見の方向性、スケジュールは。

橋本区政推進課長：今後の都筑区プランのスケジュールは都市整備局と調整しているが 10 年度策定を目指している。来年度は、改定案を

示したうえで市民意見募集を行う形になるかと思う。局から18区統一的な方法が示されるので、それを踏まえ、さらに都筑区としてどう意見を聞いていくか検討したい。また、横浜市こども子育て基本条例を踏まえ、子どもへの意見徴収の方法も検討していきたい。

白井議員：ぜひ地元の意見を聞いてもらいたい。

【スムーズ区役所事業】

白井議員：オリジナル婚姻届はつくった方がいいと思う。今の世代でも節目ということでアナログの写真を撮る。フォトスポットなど、都筑区が第二のふるさとになるような取組をシティプロモーション部署と連携して行ってもらえると効果的だと思う。相模原市はセーラームーンとコラボしていた。第二のふるさとになるきっかけづくりになると思う。要望として伝える。

【災害にそなえる自助・共助の推進事業】

白井議員：マンション管理組合との連携はどうか。

江口総務課長：現在、数を調べて管理組合が150程度あった。来年度からアプローチをしていくところ。具体的なつながりはできていない。

白井議員：水の流し方に関して、下水管が破損したときに、上階から流して試さないと排水管はあふれてしまうので、そこはぜひ取り組んでほしい。地震はいつ起きるのか分からないので、総務局でも行うようだが局が行うのを待つのではなく、自ら連携をとって拠点づくりをしてほしい。

江口総務課長：検討したい。

白井議員：ペット防災に関して、中西中学校でHUG訓練に参加したが、受け入れ側で参加したが、結構シビアだった。地域防災拠点全部に展開できればいいと思う。中西中だけという情報が広まると、その情報が広まってひとつに集中し、そこだけ割をくうので、強弱が付かないように進めていただきたい。

【文化とスポーツであふれるまちづくり推進事業】

白井議員：つづきユースフェスティバルの運営に関し、青少年指導員は

ボランティアであり、専門家ではないので、しっかり体制を整えられないこともある。青少年指導員が普及していないこともあると思うので、イベント参加者へボランティアということを知周知してほしい。

須藤地域振興課長：来年度実施するときにはチラシなどで周知していきたい。

【環境にやさしいまち推進事業（3R推進事業）】

白井議員：先発の区に比べて遅れていると聞いている。焼却工場で2,450億円削減ができています。資源循環局に聞くとごみの捨て方で一部誤ったルール、イメージが市民に浸透している。それを払しょくしなくてははいけない。

佐々田区長：GREEN×EXPO 2027 は単に楽しむというだけではなくその先に、環境面から持続可能となる行動変容につなげていくという目的がある。そのため、GREEN×EXPO 2027 を大きな契機にして、ゴミの分別や循環社会の大切さについて、楽しむといった要素とともに、しっかりお伝えてしていくということを同時にやっていきたい。

白井議員：センター北の土木事務所が張っている禁止事項を周知するための幕が破れて汚いのでどうにかできないか。

矢口土木副所長：確認して修復する。

2 報告案件

GREEN×EXPO 2027 の機運醸成の取組について

深作議員：緑区の鴨居駅に行ったが、緑区から大きくGREEN×EXPO 2027 を盛り上げようとしてあり良いと思った。私たちが盛り上げていくという巻き込まれる感があり、自分事にしやすいと思った。そのような小さい心がけでも感じていただけるのではないかと思った。検討してほしい。意見として伝える。

市役所のサンリオコラボのボールペンを買った。メローニ首相が来たときも渡していた。ノースポートモールやモザイクモールで販売できないか。

橋本区政推進課長：公式グッズの販売は、市庁舎以外他の区庁舎での展開は今のところ予定されておらず、協賛とか権利関係が厳しいと

	<p>聞いている。</p> <p>白井議員 : ネットで販売があるのではないか。</p> <p>橋本区政推進課長 : ご利用いただける。</p> <p>深作議員 : ネットもいいが、ふらっと寄って見られるのがいいなと思う。</p> <p>区内1か所だけでもできないか。</p> <p>橋本区政推進課長 : ご意見があったことを、局を通じて協会にも伝える。</p>
備 考	